【研究主題】自立した学習者を育てる授業のあり方

【副題】個別最適な学びと協働的な学びの一体化をめざす単元デザインに基づく授業実践

【学校・団体名】佐賀県佐賀市立勧興小学校

【役職名・氏名】教諭　榎津　優規

## １　主題設定の理由

本校は、佐賀市の中心部にある全校児童285名の中規模校である。本校に通う子どもたちは、素直で明るく、多くの子が教師の話を懸命に聞き、全国学力・学習状況調査でも県の平均を国語科で７ポイント、算数科で６ポイント上回る成績を収めている。

現行の学習指導要領が全面実施されて４年目となり、本校でも「主体的・対話的で深い学び」をめざした校内研究を令和３年度より３年間行ってきた。単元のゴールとそこに至るまでの道程を提示することで、子どもたちに単元の学習の価値を示し、力をつけることに一定の成果は上がっている。しかし、ただゴールと道程を示すのみで子どもの主体性が見られない授業になる場合もあり、子ども自身が自立して学ぶ姿はあまり見られていない。３か年の研究の最後の年となる令和５年度末に本校職員を対象に「本校の子どもが抱える課題」について調査したところ、「教師から提示されたことはまじめに行うが、自ら問題を見つけてその解決に向けて学ぶ姿が少ない」という声があがっている。自ら課題を見つけ、その解決に向けて主体的に学ぼうとする姿勢が欠けていることが本校の子どもの課題だと言える。

そこで本研究では、「自立した学習者」を育てる授業のあり方を検討していきたい。自立した学習者とは、自ら課題を発見し、学習を調整し、学び続ける子どもの姿を指す。そのような子どもの育成には、単元導入場面での教材や学習内容との出合わせ方の工夫、探究場面での個別最適な学びと協働的な学びが効果的に繰り返される学習環境づくりが必要であると考える。

## ２　研究仮説

（１）教材や学習内容との出合わせ方を工夫し、子ども自らが問いをもつような単元の導入をすることで子どもの学習に対する意欲が向上するのではないか。

（２）自らもった問いを解決する際、個別に学ぶ探究の時間と、知っていることや考えたことを交流させる協働の時間が効果的に繰り返される手立てを組むことで、子どもは学びの有用感を感じるのではないか。

（３）学びの有用感を感じた子どもは、学びに対して主体的になり、生涯を通じて学び続けようという意欲をもつようになるのではないか。

## ３　研究の内容

本研究では、「単元内自由進度学習を取り入れた単元デザイン」に基づく授業実践を通して、子どもの主体性を育む。「単元内自由進度学習を取り入れた単元デザイン」では、単元導入時に教師が教材や内容との出合わせ方を工夫し、子どもに単元で追究したい「問い」をもたせ、学級で共有する。追究の過程では、学級で共有した「問い」からその時間に追究したい「問い」を子ども一人一人が選択し、選んだ「問い」の解決をめざし、答えを追究していく。学習者が同じ「問い」の解決に向けて一斉に学ぶのではなく、個人の課題や興味・関心、学習計画に基づいて学習を進める単元デザインである。「単元内自由進度学習を取り入れた単元デザイン」では、「学びの地図」として以下の手立てを講じる。

<u>学びの地図①　学習到達度表やオンライン掲示板を活用した問いの共有</u>

子どもがつくった「問い」は学級で共有し、自分がその時間に解決したい問いを選択したり、自分の問いについて振り返ったりできるようにする。また、学習を進めていく中で、だれがどの問いを解決しているか把握できるようにする。

<u>学びの地図②　意図的な学習集団の形成</u>

普段の学習の様子や「問い」の選択と進捗状況を把握し、座席や学習グループを意図的につくったり、協働を促す声かけをしたりする。

<u>学びの地図③　ＩＣＴ機器による資料提供</u>

問いの答えを追究させる際、教師が予め資料を用意しコラボレーションプラットフォーム上にあげておき、子どもがいつでもその資料を活用して問いを追究できるようにする。

## ４　検証方法

（１）子どもへのアンケートを実施し、分析する。

（２）子どもの振り返りに関する記述を分析する。

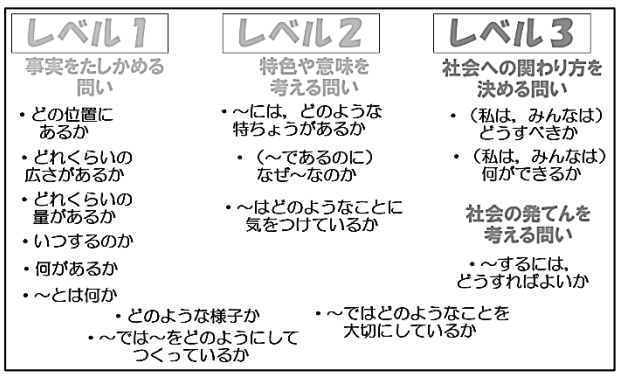
## ５　研究の実際

研究の実際については、５学年国語科、算数科、社会科、体育科での実践の内、社会科、体育科の２つの実践を紹介する。

### （１）社会科「自動車をつくる工業」

（11. ５～11. 29 実践）

単元導入時に、本校の職員が使用している自家用車をクイズ形式で紹介したり、実際に家庭状況を仮定して車を選ばせたりして、個人の家庭状況や好みによって使用する車が違うことに気付かせた。また、自動車をつくるには３万個ほどの部品が必要なこと、年間に多くの自動車がつくられ、日本だけでなく海外でも販売されていることを知らせ、本単元で追究したい「問い」をつくらせた。「問い」をつくらせる際には、４月から子どもと共有している「社会科の問いのレベル」を示すことで、社会的な事象の見方・考え方に基づいた問いを出させるようにした。「問いのレベル」は、レベル１を「事実をたしかめる問い」、レベル２を「特色や意味を考える問い」、レベル３を「社会への関わり方を決める問い・社会の発展を考える問い」としている（資料１）。子どもたちは、「どうやって年間に 7000 万台もの車をつくっているのだろうか」「自転車の部品はどうやってつくっているのだろうか」などの問いを立て、オンライン掲示板に書き込んだ。また、子どもたちがつくった問いをまとめてみんなの問いとして「自動車をつくる人たちはどのようにして自動車をつくっているのだろうか」をつくったり、学級全体で話し合いながらカテゴライズして「問いリスト」にしたりした。




資料１　問いのレベル

追究の過程では、単元導入時につくった「問いリスト」からその時間に自分が解決したい問いを選択し、コラボレーションプラットフォーム上にあげられた NHKforSchool やトヨタこどもサイトの動画を使って、問いの解決を目指した。その際、同じ問いを選んだ子ども同士を近くに座らせていつでも相談したり、学習到達度表を提示したりしながら学習を進められるようにした（資料２）。

| 問いとキーワード | A児 | B児 |
|---|---|---|
| **テーマ①自動車はどのようにしてつくられているのだろうか。** | | |
| たくさんの車をどのようにして同時につくっているのか。<br>・プレス―ようせつ―とそう―組み立て―検査<br>・呼び出しボタン　・アンドン　・指示ビラ<br>・組み立てライン　・らくらくシート | ○ 完了！ | △ と中… |
| ○車をつくる工場にも大工場と中小工場もあるのだろうか。<br>○部品はどこからくるのだろうか。<br>・関連工場　・部品工場 | ○ 完了！ | |
| | | |
| **テーマ②　自動車はどのようにして消費者に届けられるのだろうか** | | |
| どうして日本の車は世界で人気なのだろうか。<br>・日本の車の持ちょう | | ○ 完了！ |
| 車を運ぶにはどのような方法があるのだろうか。<br>・車の輸送に使う乗り物 | △と中… | |
| 車はどのようにして海外に運ばれているのだろうか。<br>・現地生産 | | |
| | | |

資料２　学習到達度表

授業終わりには毎時間、オンライン掲示板上に振り返りを書かせた。記述を見ると、自身の学び方について振り返ったり、キーワードや学習内容をしっかりとつかみとったりしながら学習していることがわかる（資料３、４下線部）。

単元の終末には、調べたことを発表し合い、思考ツール（Ｙチャート）にまとめることで自動車が客の要望や社会のニーズに合わせてつくられていることを再確認させた（資料６）。

**11月13日**

今日の問いは、どうして日本の車が世界で人気なのだろうか?にしました。調べるときに、ただ文章を写すだけではなく、わからない言葉を調べたりすると深く知れてよかったです。

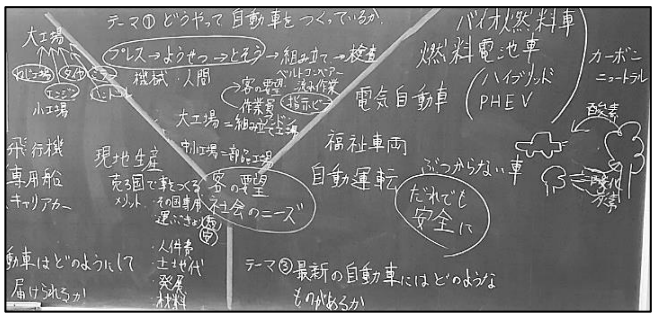
資料３　毎時間の振り返り①

**11月13日**

たくさんの車をどのようにして同時に作っているのかについて、調べました。
ジャスト・イン・タイムのことや、車の作り方が分かりました。
車を作る作業は、ほとんどロボットが作っていることが最新だなあと思いました。

資料４　毎時間の振り返り②

資料５　タブレットを見ながら話し合う様子




資料６　単元終末の板書

（２）体育科「マット運動」（９.24～10. ２実践）

単元の導入では、まず４学年時の学習を想起させながら、習得済みの技に挑戦させた。その後、技の習得状況や出来栄えを振り返らせ、技に関する問いをオンライン掲示板に書き込ませた。子どもたちは「新しい技に向けた問い」と「できる技の出来栄えを良くするための問い」をつくっている（資料７、８）。

**９月24日**

後転ができるようになるにはどんなことが必要なのか。

資料７　１時目につくった問い①

**９月24日**

側転をうつくしくするにはどうすればよいか。

資料８　１時目につくった問い②

２時目以降は、１時目につくった問いの解決をめざして、コラボレーションプラットフォーム上にあげられた動画や友達の様子を見ながら、練習をするようにした。また、その時間につかんだコツや自分の練習の進捗状況を振り返りとしてオンライン掲示板に書き込ませるようにし、振り返りには、練習の様子を撮影した動画等もあげて良いこととした（資料９）。オンライン掲示板に振り返りを書かせることで、互いの問いや振り返りをいつでも共有できるようになり、互いのつかんだコツについて交流する姿が見られるようになった。

**9月27日**

WIN_20240925_14_48_40_Pro

今日は側転の動画を撮ってお手本動画と比べました。〇〇さんともアドバイスをしあいました。自分では気づけないことが気づけたのでよかったです。次は、側転の上手の△△さんとも比べてみたいです。

資料９　動画入りの振り返り

単元の終末には、学習成果の発表会として担任や友達の前で技を披露する機会をつくった。その後、本単元の学習全体の振り返りを書かせた。

**10/2**

今日のマット運動ではテストしました。わたしは、側転をしました。側転でいつも工夫している事や、コツは、目は床に向けて、手足は、ピンっと伸ばすことでした。他には側転しているときに、体を反る感じですると、まっすぐになります。テストで、できるかどうかドキドキしていましたが、成功出来て嬉しかったです。今日でマット運動は終了でしたが自分で調べたり、友達に教え合ってとても楽しく終わりました。六年生のときにもしかしたらマット運動あるかもしれないので、六年生では、五年生のマット運動よりも成長したり、もっと難しいのに挑戦しようと思います!!次の学習でもがんばります!!

資料10　単元末の振り返り①

振り返りの記述を見ると、楽しみながらマット運動の練習をしたこと、次学年でのマット運動への意欲を高めていることがわかる（資料10下線部）。また、「問い」をもって活動したことで、目標を明確にして活動することができ、体育科の他単元の学習でも同様に「問い」をもってその解決をめざしながら学習しようとしていることがわかる（資料11下線部）。

**10月２日**

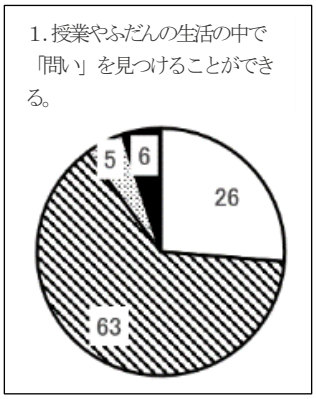
私は、本番で上手く回れたなと思います。前の自分は後転が出来なかったけれど今の自分は後転が出来るようになったので嬉しいです。コツは、顔を足の間に入れることです。これからの体育の違う学習でも、いろいろな問いをもっていろいろな技に挑戦していけたらいいなと思います。

資料11　単元末の振り返り②

６　検証

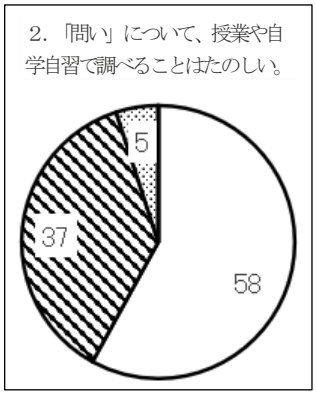
本研究では、「単元内自由進度学習を取り入れた単元デザイン」に基づく授業を通して、子どもの主体性を育むことを目的に１年間通して実践を行ってきた。

子どもへのアンケートを２月下旬に実施したところ、以下のような結果になった（アンケートの凡例は□あてはまる，▧どちらかといえばあてはまる，▒あまりあてはまらない，■あてはまらない）。



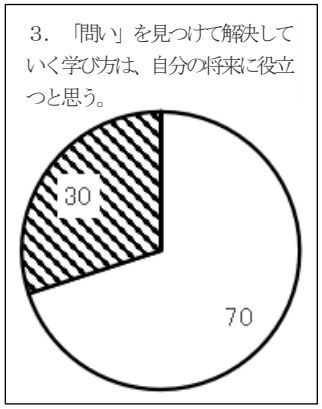

資料12　アンケート結果①

１年間を通して、複数教科で授業実践を重ねたことで、89%の子どもが「問いを見つけることができる」と答えるようになった（資料12）。また、95%の子どもが「問いについて、授業や自学自習で調べることはたのしい」と答えており、その理由として「自分が興味のあることについて調べると、時間を忘れてしまうくらい楽しい」「自分で問いを解決できたときものすごくうれしくなる」という好意的な意見が上がっている（資料13）。



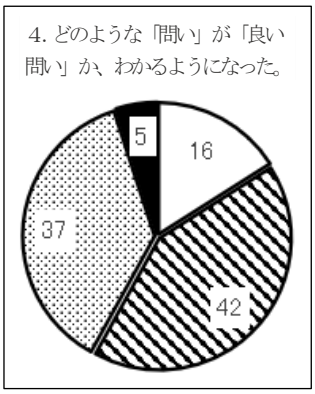

資料13　アンケート結果②

さらに、100%の子どもが「問いを見つけて解決していく学び方は、自分の将来に役立つ」と答えてお




資料14　アンケート結果③

り、その理由として「将来、仕事について問いを見つけたりすることがある」「親も先生も自分で問いをつくって解決していっている」といった意見が上がった（資料14）。



資料15　アンケート結果④

一方、「どのような問いが良い問いか、わかるようになった」という設問に対して、肯定的な答えを出した子どもは58%に留まった（資料15）。７月にとったアンケートではどのような問いが良い問いか適当な答えを出す子どもは数名であった。しかし、今回のアンケートで「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた子どもに、どのような問いが良い問いと思うか尋ねたところ、「その教科でこれからやることに関係するもの」「『どのように』『なぜ』が入っているもの」といった回答があった。このことから見通しをもち、事象の原因や状態を追究する問いが良い問いだと考えるようになっていることがわかる。

また、授業中に書かせた毎時間の振り返りや単元末の振り返りを見ると、「問い」をもち、その解決をめざして学習することを好意的に受け止めている子どもが多いことがわかる。また、その時間の学習を振り返り、次時の目標をもったり、自分の学習の進度を顧みて時間を見つけて学習を進めたりしようとする姿も見られている（資料16、17）。

**11月12日**

自由進度学習は、調べるのも楽しいし、みんなと話し合って進められるのでいいと思います。今日はなかなか出来なかったけど、次は問いをひとつは解決します。

資料16 単元内自由進度学習に関する振り返りの記述①

**11月13日**

自由進度学習は、調べることに夢中になるし、考えることができるので、とってもいいと思います。あと「車を作るにはどうすればいいのか」が問いなのですが、ペースが遅いと思うので、昼休みにやりたいです。

資料17 単元内自由進度学習に関する振り返りの記述②

さらに「問い」をつくることや自由進度学習について自由記述でのアンケートをとったところ、「自分で問いをつくって、それを自分で調べるということは素晴らしいと思う。理由は、自分で何かをしようと思える行動ができるようになるから」「いろんな問いを調べるのは楽しいので、ぜひいろんな問いを調べてみたい」「自由進度学習だと、周りに合わせずに自分のペースで進めるから好き」「自由進度学習で、個人で調べた後、協力していくからおもしろい」という意見があがった。問いをつくることや自由進度学習に対して肯定的な意見が多く、自分でＩＣＴ機器と資料を活用して調べる個別の学びと、そこで得た知識や考えについて交流して高めていく協働的な学びの両方を楽しみつつ、その効果を実感していることがわかる。

## ７　成果と課題

○　教材や学習内容との出合わせ方を工夫し、子ども自らが問いをもつような単元の導入をすることで、子どもに目的をもって学習することの大切さや学習の有用感を感じさせることができた。

○　「個別最適な学びと協働的な学びの一体化をめざす単元デザインに基づく授業実践」を通して、個別に学ぶ探究の時間と、知っていることや考えたことを交流させる協働の時間が効果的に繰り返され、子どもが学びを楽しみながら主体的に学習を進めることができた。

●　本実践では、国語科、算数科、社会科、体育科における「個別最適な学びと協働的な学びの一体化をめざす単元デザインに基づく授業実践」を行ったが、他教科での実践を重ねることでさらに子どもの主体性を向上させることができると考える。また、単元内自由進度学習はあくまで個別最適な学びと協働的な学びの一体化をめざす一つの実践方法であるので、他の手段についても模索したい。

## ８　参考文献

・有田和正　「追究の鬼」を育てる学級づくり　明治図書出版　1995年
・澤井陽介　学級経営は「問い」が９割　東洋館出版　2016年
・奈須正裕、伏木久始　「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して　北大路書房　2023年
・樋口万太郎　子どもの問いからはじまる授業！　学陽書房　2020年
・蓑手章吾　自由進度学習のはじめかた　学陽書房　2021年
・蓑手章吾　個別最適な学びを実現するＩＣＴの使い方　学陽書房　2022年
・文部科学省中央審議会　初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）参考資料　2024年